

アマチャ



和名 (科名)	アマチャ、甘茶 (ユキノシタ科)
別名	特になし
英名	特になし
特徴	ヤマアジサイ (広義) の中から、甘味の強い (ある) 変異株を選抜し、その葉を発酵乾燥したのが甘茶である。昔から、4月8日の灌仏会の甘茶供養に用いられ、また生薬の甘味剤として、日本薬局方にも収載される。
有毒成分	甘茶による中毒が、2009～2010年、相次いで発生した。いずれも花祭り (灌仏会) で、子供数十人が、甘茶を飲んで嘔吐症状を訴えた。原因はまだ定かではないが、著者らの実験によると、濃い濃度で入れた甘茶は苦味が強く、吐き気・悪心を催すことがあるが、普通の濃度で入れることで甘茶本来の甘味を感じ、吐き気・悪心を催さずに飲めることがわかっている。 なお、甘茶の葉でシアン化合物が検出されるとの報告があるが、普通の濃度で入れた甘茶では検出されていない。

毒性

部位	葉	茎	花
毒性	弱	不明	不明
食用の可否	×	不明	不明